

## 第 12 次八戸市農業計画の骨子案について

### 1 策定の趣旨

八戸市では、「八戸市農業発展の基本方向（昭和 46 年策定）」に基づき、11 次にわたり農業計画を策定し、農業の生産性の向上と農業所得の増大を目的に、当市の特性を生かした都市近郊型農業の確立に向けて、諸施策を講じてきた。

市内では、水稻をはじめ、野菜、花き、果物、畑作物、畜産物等の地域特性を生かした多彩な農産物の生産が行われ、市域の食料供給を担うとともに、高速交通網の充実のもと、首都圏を中心とした広域流通が展開され、地域経済の振興の一端を担っている。

しかしながら、第 11 次八戸市農業計画策定時（平成 29 年）に比べ、農業を取り巻く情勢は、労働力不足、担い手の高齢化、経営耕地面積の減少が更に進み、さらには、農業生産の減退等の構造的な脆弱化に加えて、食に関するニーズの多様化、AI や IoT 等の技術革新、グローバル化の一層の進展、持続可能な開発目標（SDGs）に対する国内外の関心の高まり等、大きく変化している。

また、近年の自然災害、野生鳥獣害、家畜疾病等の被害が、農業の現場に深刻な影響を及ぼすとともに、新型コロナウイルス感染症などの新たな脅威への対応、さらには、それらによる社会・経済活動や消費者ニーズ等の大きな変化に対応することが求められている。

このような状況を踏まえ、市が自らの発想と戦略による特色ある農業施策を総合的かつ計画的に推進し、より筋肉質な産業としての農業の振興と持続的発展を図るため、本計画を策定する。

### 2 計画の位置づけ

「八戸市農業計画」は、農林業センサスの公表にあわせ、概ね 5 年毎に策定しており、国の「食料・農業・農村基本計画」及び県の「攻めの農林水産業推進基本方針」等の農業に関する国・県の諸計画の趣旨に留意し、「八戸市総合計画」を踏まえながら策定する。

また、毎年度、「八戸市農業計画」に基づき、「農業生産推進計画」を策定し、各年度の農業情勢に配慮しながら、生産関連施策の推進を図ることとしている。

### 3 計画期間

令和4年4月～令和9年3月

<参考：八戸市農業計画の策定の経過>

- ・八戸市農業発展の基本方向 昭和46年9月
- ・第1次八戸市農業計画 昭和49年4月～昭和52年3月
- ・第2次八戸市農業計画 昭和52年4月～昭和55年3月
- ・第3次八戸市農業計画 昭和55年4月～昭和58年3月
- ・第4次八戸市農業計画 昭和58年4月～昭和61年3月
- ・第5次八戸市農業計画 昭和61年4月～平成元年3月
- ※計画期間の延長（2年） 平成元年4月～平成3年3月
- ・第6次八戸市農業計画 平成3年4月～平成8年3月
- ・第7次八戸市農業計画 平成8年4月～平成13年3月
- ・第8次八戸市農業計画 平成13年4月～平成18年3月
- ・第9次八戸市農業計画 平成18年4月～平成23年3月
- ※計画期間の延長（1年） 平成23年4月～平成24年3月
- ・第10次八戸市農業計画 平成24年4月～平成29年3月
- ・第11次八戸市農業計画 平成29年4月～令和4年3月

### 4 現状

#### (1) 農家数

- ・農家数は平成22年比953戸（30%）の減、うち販売農家数は748戸（40%）の減、自給的農家数は205戸（16%）の減。

（単位：戸）

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	3,187	1,876	1,311
平成27年	2,736	1,477	1,259
令和2年	2,234	1,128	1,106

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

## (2) 耕地面積

- ・耕地面積は平成 22 年比 570ha (11%) の減、うち田は 280ha (12%) の減、畑は 290ha (9%) の減。

(単位：ha)

年別	総面積	田	畑
平成 22 年	5,380	2,280	3,100
平成 27 年	4,900	2,050	2,860
令和 2 年	4,810	2,000	2,810

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇農林水産統計年報より

## (3) 経営耕地面積

- ・経営耕地面積は平成 22 年比 623ha (24%) の減、うち田は 218ha (17%) の減、畑は 341ha (30%) の減、樹園地は 64ha (32%) の減。

(単位：ha)

	経営耕地面積	田	畑	樹園地
平成 22 年	2,596	1,265	1,129	202
平成 27 年	2,419	1,102	1,133	184
令和 2 年	1,973	1,047	788	138

※ 経営耕地：農林業経営体が経営している耕地（けい畔を含む田、畑及び樹園地）をいい、自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

## (4) 農業生産

- ・水稲をはじめ、ながいも、ねぎ、ピーマン、にんにく等の露地野菜、いちご、ミニトマト等の施設野菜、りんご、ブルーベリー等の果物やワイン用ぶどう、キク、トルコギキョウ等の花き、そば等の畑作物、葉たばこ等の特用作物、鶏卵等の畜産物等、地域特性を生かした多様な生産が展開されている。
- ・市民に新鮮かつ良質で多彩な食料を安定的に供給。また、高速交通体系の整備により首都圏を中心とした広域流通も展開されている。
- ・農業生産という本来の役割の他に、市民に潤いと安らぎをもたらす場としての緑と良好な景観、水源のかん養、自然環境の保全、防災空間としても重要な役割を果たしている。

(参考)

①経営耕地面積規模別経営体数

(単位：上段 経営体数、下段 %)

	経営体数	1 ha未満	1 ha以上	2 ha以上	3 ha以上	5 ha以上
			2 ha未満	3 ha未満	5 ha未満	
平成22年	1,915	1,089	517	160	99	50
	100	57	27	8	5	3
平成27年	1,508	838	387	129	93	61
	100	56	26	8	6	4
令和2年	1,148	644	280	104	68	52
	100	56	24	9	6	5

※ 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

◇農林業センサスより

②農業経営組織別経営体数

(単位：上段 経営体数、下段 %)

販売のあった経営体		単一経営						複合経営
		稲作	野菜	果樹	花き	畜産	その他	
平成22年	1,573	714	128	98	11	42	227	353
	100	45	8	6	1	3	14	23
平成27年	1,273	583	132	105	10	46	161	236
	100	46	10	8	1	3	13	19
令和2年	1,009	431	123	88	8	34	140	185
	100	43	12	9	1	3	14	18

◇農林業センサスより

③農産物販売金額規模別経営体数

(単位：区分 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数		50未満	50以上	300以上	500以上	1,000以上
			300未満	500未満	1,000未満	
平成22年	1,573	675	619	124	101	54
平成27年	1,273	587	418	104	96	68
令和2年	1,009	310	418	100	105	76

◇農林業センサスより

#### ④農業産出額

(単位：1000万円)

年 別		平成 27	平成 28	平成 29	平成 30
耕 種	米	102	111	110	117
	野菜	191	219	214	233
	果実	79	81	77	78
	その他耕種	94	87	81	73
	小計	466	497	481	502
畜 産	肉用牛	58	48	47	50
	乳用牛	15	15	15	17
	生乳	14	13	13	14
	豚	89	84	82	75
	鶏	767	781	827	791
	鶏卵	726	739	775	721
	その他畜産物	49	46	38	45
小計	978	973	1,010	977	
合 計		1,444	1,470	1,490	1,479

※ 農業産出額：推計年の生産農業所得統計（都道府県別）において推計した都道府県別農業産出額（品目別）を農林業センサス又は推計年産の作物統計調査を用いて市町村別に按分して作成されたもの。

◇農林水産省大臣官房統計部 経営・構造統計課調べ

## 5 第12次八戸市農業計画の施策の基本方向案

- 1 魅力ある多様な農業経営体の育成
- 2 地域特性を生かした八戸農業の推進
- 3 発信型農業の促進
- 4 持続的な農業生産環境の整備
- 5 八戸飼料穀物コンビナートや冷涼な気候を生かした畜産業の振興
- 6 森林環境の整備
- 7 地域資源の活用による可能性の追求
- 8 グローバル化への対応

## 6 11 地区別の振興農産物（案）

- (1) 市川地区  
    水稻、小麦、大豆、いちご
- (2) 下長地区  
    水稻、トマト、ねぎ
- (3) 上長地区  
    水稻、ごぼう、ながいも、にんにく、ピーマン
- (4) 豊崎地区  
    水稻、ピーマン、ごぼう、ながいも、にんにく
- (5) 館地区  
    水稻、ミニトマト、スナップエンドウ、ねぎ、りんご、もも
- (6) 是川地区  
    水稻、ねぎ、ながいも、トマト、トルコギキョウ
- (7) 大館地区  
    水稻、花き、乳牛
- (8) 南浜・美保野地区  
    アスパラ、ごぼう、じゃがいも、スイートコーン、にんじん、  
    にんにく、ながいも、ねぎ、花き、養豚、養鶏
- (9) 旧市内地区  
    野菜、花き
- (10) 島守地区  
    水稻、りんご、葉たばこ、肉用牛、ワイン用ぶどう
- (11) 中沢地区  
    ながいも、葉たばこ、ブルーベリー、ワイン用ぶどう

## 7 地域資源

### (1) 地理的資源

- ・夏期は比較的冷涼、冬期は東北地方北部にありながら、積雪量が少なく、日照時間が長い気候条件。  
※年平均気温約 10℃、年降水量約 1,000mm、年日照時間約 1,900 時間。
- ・臨海部、内陸部等の地域毎に異なる気候。
- ・東北新幹線、東北縦貫自動車道、八戸港等の交通ネットワーク。

### (2) 社会的資源

- ・青森県内を3分する経済圏の1つの中核であるとともに、北奥羽地域の拠点としての位置付け。
- ・市域の約 22 万人の消費人口。
- ・市場流通を基本としながらも、朝市、直売施設等の多様な販売機会の定着。
- ・八戸学院大学、八戸工業大学及び八戸工業高等専門学校等の高等教育機関の立地。

### (3) 経済的資源

- ・日本有数の水揚げ量を背景とした水産加工業等食産業の集積。
- ・東北グリーンターミナル株式会社を核とし、配合飼料製造企業数社により形成された国内有数の八戸飼料穀物コンビナート。
- ・新産業都市の指定を契機に発展を遂げた基礎素材型産業等の集積。
- ・国際コンテナ定期航路及び内航フィーダー航路の就航。
- ・青森県南及び岩手県北の広域商圈を有する小売業、飲食業等の集積。
- ・ユネスコ無形文化遺産 八戸三社大祭等の観光資源を生かした観光産業の振興。
- ・国際大会が開催可能な屋内スケート場の整備等スポーツ施設の充実。